NIE実践報告

1．タイトル：教職課程履修学生によるNIEを活用した授業実践

2．学校名

札幌国際大学

3．実践者名（代表者名）

横田久貴

4．学年

大学３年生

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

教職課程(社会科・地歴公民科)履修学生

6．単元（本時の学習課題）名

社会科(地歴公民科)、ホームルーム指導におけるNIEの実践

7．目標（狙い）

NIEの推進には将来教師を目指す大学生のうちからＮＩＥの実践的な資質・態度の育成を図ることが求められている。これを受け、本学教職課程では、講義の中で新聞を使った授業実践を実施した。

8．評価の視点

①自ら作成した指導案及び評価観点にもとづき、授業実践・評価がなされているか。
②教師側、生徒（学生）側の両面から授業の目標と成果及び評価のあり方が適正であったか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

将来、教師を目指す学生らに、まず予想される教科の年間指導計画を作成させ、その位置づけを想定させた上で、本時の授業指導案を作成し、学生らによる模擬授業として実践を行いました。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

教職課程教科教育法(社会科・地歴公民科)における学習展開
①講義の最終回にNIEについて課題(授業実践)を提示
②通常の講義とは別に模擬授業を実践、合評会(授業の評価)等意見交換を行った。

実践は、各学生の作成する①年間指導計画②単元の目標、位置づけ、学習観③本時の指導案による。
また、指導内容は社会科、地歴公民科、ホームルーム指導のいずれかにおいて実施することとした。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

学生は模擬授業ではあるが、各想定の中で生徒の動き、反応を予測し指導案を作成、模擬授業を実践した。
まだまだ未熟ではあるが、今日の教員採用試験がより実践を評価する形態に変化している中、学生の教師としての実践力向上に少なからず寄与したものと思われる。

12．成果と課題

報告の関係上1名の学生の指導案(及び授業時使用のプリント)を添付している。残念ながら、今報告書の体裁が「教師の生徒に対する実践報告書」となっており、本学のような全ての学生が教師となった変則的実践にはなじまない。今後、本学での指導方法や報告の在り方について改善が求められる。